

授業概要

本講義は、会計基準の国際的統合化の実現に向けての努力の歴史、現状および将来の課題を学ぶものである。本講義の主な内容は、会計基準の国際統合の観点から、国際的統合を目指す国際的動向とその問題点についての解説、国際会計基準審議会（IASB）の国際会計基準（IAS/IFRS）の考え方やその特徴、また、その具体的な会計基準の解説などである。

授業計画

第1回	会計国際化の意義と賛否両論
第2回	IASBの設立とその活動
第3回	会計制度の国際的動向と日本の対応
第4回	IFRSの設定プロセスとその特徴
第5回	IFRSの概念フレームワーク
第6回	収益の認識と測定
第7回	棚卸資産、有形固定資産
第8回	無形固定資産、資産の減損
第9回	金融商品の認識と測定
第10回	引当金と偶発事象
第11回	従業員給付とストックオプション
第12回	連結と結合の会計
第13回	リース会計
第14回	外貨換算会計
第15回	IFRSの将来像
第16回	定期試験

到達目標

経済経営のグローバル化に対応できるように、国際会計に関する高度の専門性と経済経営社会への関心や国際的な視野を広げることを意図している。

履修上の注意

- ・会計学関連科目（特に、会計学総論）を履修すること。
- ・複式簿記の原理を理解していることが望ましい。

予習復習

授業の理解度を高めるために、レポートなどを通して講義内容に合わせて国際会計の関連用語を熟知させる。

評価方法

定期試験(80%)及びレポート(20%)で評価する。

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて、資料を配布する。